


株 主 の 皆 様 へ

第 98 期  
報 告 書

平成21年4月1日～平成22年3月31日

 山陽特殊製鋼株式会社

証券コード | 5481



代表取締役社長  
藤原 信義

## Contents

株主の皆様へ	1
事業セグメントの状況	3
連結財務諸表	5
トピックス	7
会社・株式情報	9

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
ここに、第98期(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の  
営業の概況等をご報告申し上げます。

## 営業の概況

当期のわが国経済につきましては、前年度半ばに生じた米国の金融問題に端を発する世界同時不況の影響により、上期では、内外需要の急減に在庫調整が加わり、生産水準の急落や企業収益の悪化、あるいは設備投資の減少など、誠に厳しい状況で推移いたしました。下期以降、各種経済対策の効果、アジアを中心とする海外経済の改善などにより、ようやく需要・生産とも持ち直してまいりましたものの、中国・インドをはじめとするアジア諸国や米国などくらべ、わが国経済の回復は力強さに欠け、先行きは依然として不透明な状況にあります。

特殊鋼業界につきましては、主要需要業界のうち、自動車業界におきましては、エコカー減税等の好影響もあり、上期の半ばより需要・生産が回復に転じました。一方、産業機械、建設機械業界におきましては、下期に至りようやく回復の兆しを見せましたものの、設備投資の低迷により、依然として比較的低位の生産レベルにあります。総じて期全体では、需要・生産が低い水準で推移したことから、特殊鋼熱間圧延鋼材の生産は、前期を下回る水準となりました。

このような中、当社グループの売上高につきましては、販売数量の減少や鉄スクラップ価格の変動に伴う販売価格調整により、前期比672億18百万円減の955億16百万円となりました。利益面につきましては、コストダウンの実施や経済状況全般の改善もあって、期を追うごとに回復を見せ、第3四半期以降は黒字に転じたものの、期を通じての経常損益は36億32百万円の損失(前期は47億99百万円の利

益)となりました。当期純損益につきましては、25億84百万円の損失(前期比15億61百万円増)となりました。

なお、当期の配当につきましては、当期純損益が損失となりましたため、遺憾ながら無配とさせていただくことといたしました。株主の皆様には誠に申し訳ございませんが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

## 次期の見通し

今後のわが国経済の見通しにつきましては、中国・インドを中心とする新興国の経済成長等により、若干の跛行を伴いつつも、徐々に回復に向かうものと考えられます。しかしながら、当面の間は、实体经济の水準そのものは低いレベルで留まるものと考えざるを得ず、特殊鋼の需要水準につきましても、従前の水準までの回復には時間を要するものと考えられます。加えて新興国での原料需要はスクラップ価格等の上昇を招きつつあり、当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続くと思われまます。

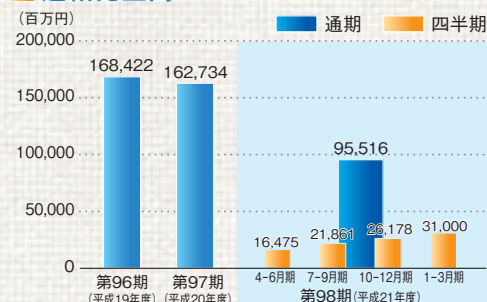
こうした中、当社グループとしては、需要家ニーズへの的確な対応や、非価格競争力の強化に向けた取り組みに、より一層注力することによって、こうした状況下でも堅調な分野の需要を確実に捕捉するとともに、コストダウンの更なる徹底等の内部努力や、鉄スクラップサーチャージ制度の拡充、確立など、高品質の特殊鋼を適切に供給出来る事業体制の構築をグループの総力を挙げて推進し、企業価値の増大を図っていく所存であります。

以上を総合的に勘案し、次期の業績につきましては、売上高は1,500億円、経常利益は90億円、当期純利益は53億円を見込んでおります。

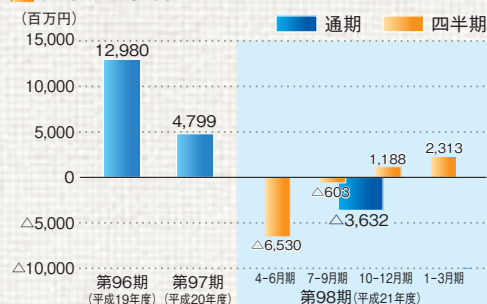
株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月

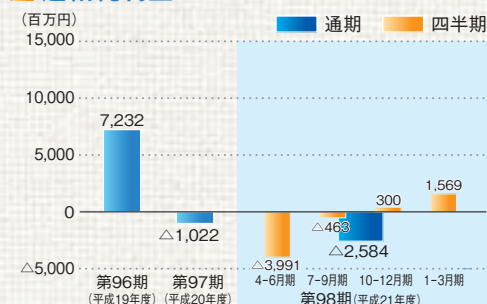
### 連結売上高



### 連結経常利益



### 連結純利益

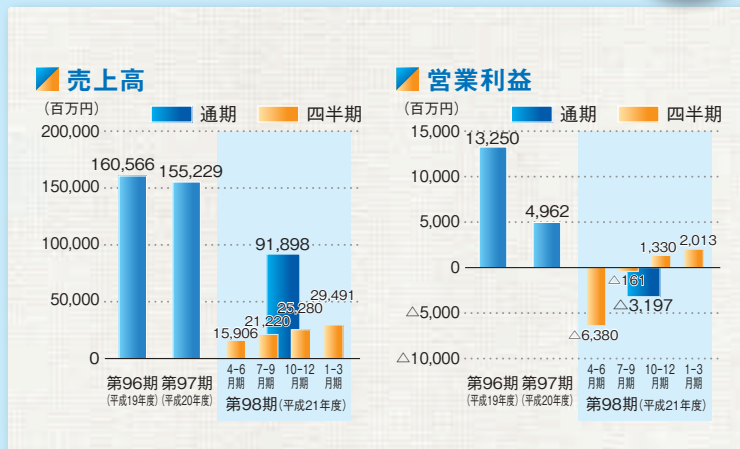


## 鋼材事業

売上高構成比  
88.4%

### 営業の概況

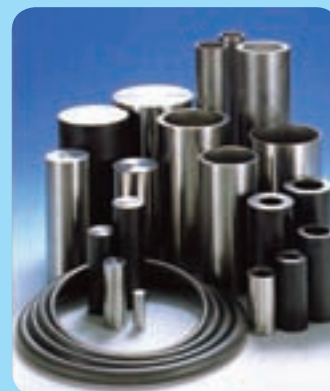
一昨年の秋口以降、急激に落ち込んだ需要は、期の半ば以降、ようやく回復の兆しがみられましたものの、当期全体を通じて低い水準で推移いたしました。これによる販売数量の減少等により、売上高は918億98百万円(前期比633億31百万円減)となりました。営業損益につきましては、コストダウンの実施に注力したものの、販売数量の減少などにより31億97百万円の損失(前期は49億62百万円の利益)となりました。



### 事業解説

鋼材事業セグメントでは、当社の高纯净度鋼製造技術により、国内生産シェアトップである軸受鋼をはじめとして、機械構造用鋼、ステンレス鋼などの特殊鋼鋼材・鋼管を製造、販売しています。

当社の鋼材は世界最高水準の纯净度を誇り、「鋼材が持つ本来の性能を最大限まで引き出すために、鋼中の最大介在物の大きさをコントロールする」という当社独自のコンセプトで開発された製鋼法「SNRP (Sanyo New Refining Process)」をはじめとする製鋼技術や操業技術がそれを支えています。また、日本の特殊鋼専門メーカーの中では当社が唯一継目無鋼管製造設備を保有していることも、当社の大きな特長です。



特殊鋼鋼材・鋼管

(注)各事業セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。  
ただし、売上高構成比につきましては、各事業セグメント売上高のうち外部売上高のみから算出しております。

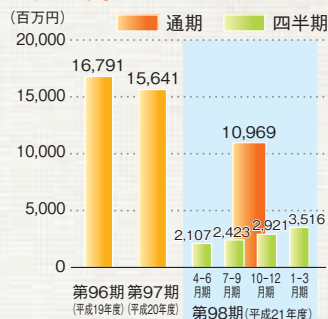
## 素形材事業

売上高構成比  
11.5%

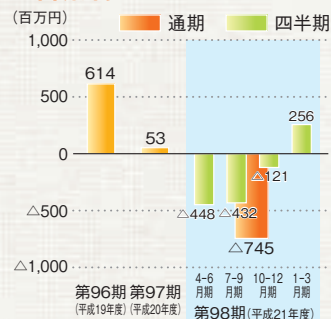
### 営業の概況

鋼材事業と同様、販売数量の減少により、売上高は109億69百万円(前期比46億72百万円減)となりました。営業損益につきましては、販売数量の減少などにより7億45百万円の損失(前期は53百万円の利益)となりました。

### 売上高



### 営業利益



### 事業解説

素形材事業セグメントでは、高纯净度鋼製造技術を駆使して造りあげた高信頼性鋼から、高品質の素形材製品を一貫した工程で製造しています。当社の素形材には、特殊鋼鋼管を高い精度で切断した切断リングや、棒鋼から製造する鍛造リング・型鍛造品・ローリング品、リング素形材を冷間で転造した冷間転造リングなどがあります。



鍛造リング

## その他事業

売上高構成比  
0.1%

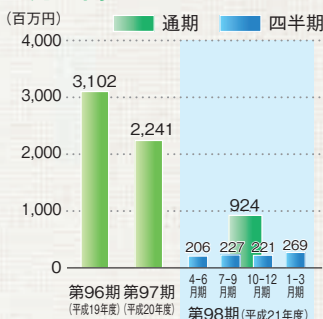
### 営業の概況

売上高は9億24百万円(前期比13億16百万円減)、営業利益は29百万円(前期比37百万円減)となりました。

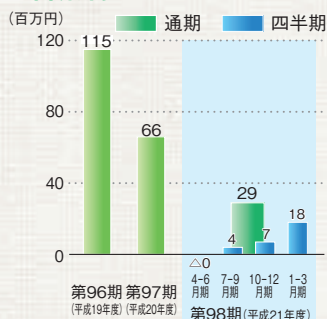
### 事業解説

子会社を通じて、情報処理サービスを行っています。

### 売上高



### 営業利益



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

当連結会計年度末  
(平成22年3月31日)

科目	金額
(資産の部)	
流動資産	88,292
固定資産	71,440
<b>資産合計</b>	<b>159,732</b>
(負債の部)	
流動負債	55,479
固定負債	17,838
<b>負債合計</b>	<b>73,317</b>
(純資産の部)	
株主資本	84,159
評価・換算差額等	1,852
少数株主持分	403
<b>純資産合計</b>	<b>86,414</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>159,732</b>

(単位：百万円)

## 連結損益計算書

当連結会計年度  
自平成21年4月1日  
至平成22年3月31日

科目	金額
<b>売上高</b>	<b>95,516</b>
売上原価	90,422
売上総利益	5,093
販売費及び一般管理費	9,039
<b>営業損失</b>	<b>3,946</b>
営業外収益	1,149
営業外費用	835
<b>経常損失</b>	<b>3,632</b>
特別利益	35
特別損失	666
<b>税金等調整前当期純損失</b>	<b>4,263</b>
法人税等合計	△ 1,668
少数株主損失	10
<b>当期純損失</b>	<b>2,584</b>

(単位：百万円)

当連結会計年度

(自平成21年4月1日  
至平成22年3月31日)

## 連結株主資本等変動計算書

	株 主 資 本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等 合計		
平成21年3月31日残高	20,182	22,592	45,869	△ 1,726	86,918	181	△ 488	△ 306	416	87,027
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△ 161	—	△ 161	—	—	—	—	△ 161
当期純利益	—	—	△ 2,584	—	△ 2,584	—	—	—	—	△ 2,584
自己株式の取得	—	—	—	△ 23	△ 23	—	—	—	—	△ 23
自己株式の処分	—	1	—	9	10	—	—	—	—	10
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の 変動額(純額)	—	—	—	—	—	2,170	△ 11	2,159	△ 13	2,146
連結会計年度中の変動額合計	—	1	△ 2,745	△ 14	△ 2,758	2,170	△ 11	2,159	△ 13	△ 612
平成22年3月31日残高	20,182	22,594	43,123	△ 1,740	84,159	2,351	△ 499	1,852	403	86,414

(単位：百万円)

## 連結キャッシュ・フロー計算書

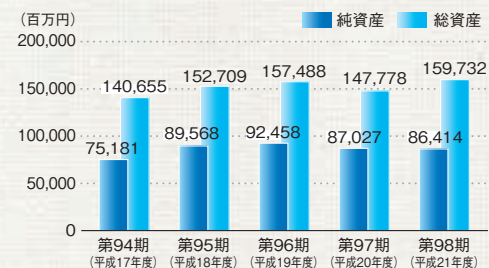
当連結会計年度

(自平成21年4月1日  
至平成22年3月31日)

科目	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,270
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,367
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,199
現金及び現金同等物に係る換算差額	25
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 10,412
現金及び現金同等物の期首残高	22,468
現金及び現金同等物の期末残高	12,055

(単位：百万円)

## ■ 連結総資産・純資産



## 「高信頼性鋼の山陽」の技術力の証 当社取締役3名が栄誉ある賞を受賞

当社取締役3名が、(社)日本鉄鋼協会および(社)日本金属学会から栄誉ある賞を受賞しました。

3氏の受賞は、当社がこれまで長年にわたって培ってきた特殊鋼製造技術の高さと、それによって実現する当社製品の高い信頼性を象徴するものです。当社はこれからも、技術力の強化に向けた不断の努力を通じて「高信頼性鋼の山陽」のブランド力を更に高め、「世界に存在感を示す特殊鋼メーカー」を目指します。

### 特殊鋼業界最高の栄誉 (社)日本鉄鋼協会から「技術功績賞(渡辺三郎賞)」を受賞



専務取締役 児玉 和哉氏

当社専務取締役の児玉和哉氏が、(社)日本鉄鋼協会から技術功績賞(渡辺三郎賞)を受賞しました。この技術功績賞は、特殊鋼に関する学術上、技術上の進歩発達に顕著な貢献をした会員に対して与えられるもので、今回の受賞者は全国で僅か2名と、特殊鋼業界で最も権威のある賞とされています。

児玉氏は、特殊鋼の品質と信頼性を飛躍的に高める製鋼技術の開発・確立、製造が困難とされる品種の量産技術の確立、特殊鋼製造プロセスにおける環境負荷低減など、わが国の特殊鋼鋼材の品質水準を高め、特殊鋼製造プロセスの進歩と発展に貢献する多大な功績をあげたことが称えられました。

#### 主な功績

##### 【高品質を実現する特殊鋼製鋼技術の確立】

特殊鋼の溶製・連続鑄造技術を進歩・発展させ、超高清浄度鋼をはじめとする品質と信頼性を飛躍的に高めた特殊鋼の製鋼技術を確立し、特殊鋼鋼材の品質水準の更なる向上に貢献しました。

##### 【製造困難な品種の量産技術の確立】

困難とされていた高アルミ窒化鋼の多連続鑄造技術や、高合金鋼・超合金の大型電気炉による製造技術を確立するなど、高品質と高生産性を両立した特殊鋼・特殊材料の量産技術を実用化しました。

##### 【特殊鋼製造プロセスにおける環境負荷低減】

低炭素、資源循環型社会の構築に向けて、特殊鋼製造プロセスにおける省エネ・CO<sub>2</sub>排出量削減や、製鋼スラグ等の副産物のリサイクル化を図り、品質と生産性、低環境負荷を高度に兼ね備えた特殊鋼製造プロセスの構築を推進しました。



## (社)日本鉄鋼協会から「技術貢献賞(渡辺義介記念賞)」を受賞



取締役 西濱 渉氏

当社取締役の西濱渉氏が、(社)日本鉄鋼協会から技術貢献賞(渡辺義介記念賞)を受賞しました。この技術貢献賞は、わが国鉄鋼業の進歩発達に多大な功績のあった会員に対して与えられる賞です。

西濱氏は、特殊鋼継目無鋼管の品質・生産性の向上などに尽力し、コールドピルガー圧延において世界最高水準の品質と生産性を実現する操業技術確立するなど、継目無鋼管製造技術の進歩と発展に寄与する功績をあげたことが評価されました。

### 主な功績

#### 【高品質と高生産性を実現する継目無鋼管製造技術の確立】

コールドピルガー圧延・アッセルミル圧延における操業技術の開発や設備改良等に取り組み、継目無鋼管の品質を向上しつつ大幅な生産性向上を実現する製造技術確立しました。

#### 【特殊用途のステンレス鋼管・超合金管の製造技術の確立】

熱間押出における製造プロセスの開発・改良に取り組み、火力発電設備用のボイラ管をはじめとする特殊用途のステンレス鋼管・超合金管の製造技術確立しました。

## (社)日本金属学会から「技術賞」を受賞



取締役 柳谷 彰彦氏

当社取締役の柳谷彰彦氏が、(社)日本金属学会から技術賞を受賞しました。この技術賞は、工業技術の改良進歩に貢献した技術者に対して与えられる賞です。

柳谷氏は、高機能金属材料の開発・量産化技術の確立に従事し、数多くの高機能材料の実用化を果たすとともに、研究活動や関連特許において多数の実績を築き、機能材料の分野における技術の発展に貢献する多くの功績をあげたことが認められました。

### 主な功績

#### 【高機能金属材料の開発ならびに量産化技術の確立】

優れた電磁気特性と耐食性、被削性を備えた電磁ステンレス鋼など数多くの高機能金属材料を開発、量産化技術確立し、実用化を果たしました。

## 会社概要

平成22年3月31日現在

社 名 山陽特殊製鋼株式会社  
英 文 社 名 Sanyo Special Steel Co., Ltd.  
設 立 昭和10年1月  
資 本 金 20,182百万円  
営 業 品 目 特殊鋼鋼材・鋼管、素形材、その他  
本 社 ・ 工 場 姫路市飾磨区中島3007番地(〒672-8677)  
☎(079)235-6003 (総務部)  
支社・支店・営業所 東京支社、大阪支店、名古屋支店、広島支店、  
九州営業所  
従 業 員 数 1,488名(就業人員)  
ホームページアドレス <http://www.sanyo-steel.co.jp/>

## 役員

平成22年6月29日現在

代表取締役社長	藤原信義	取締役	柳谷彰彦
専務取締役	桐山哲夫	取締役	榮山博之
専務取締役	田中延幸	取締役	小林正治
常務取締役	塚本裕	常任監査役(常勤)	重森哲二
常務取締役	木村弘明	監査役(常勤)	堤晴児
常務取締役	中村秀樹	監査役(常勤)	佐々木英之
常務取締役	磯本辰郎	監査役(非常勤)	吉井毅
取締役	水田克巳	監査役(非常勤)	芝尾信二
取締役	富永真市	監査役(非常勤)	村上雅俊
取締役	西濱渉		

## 重要な子会社等

平成22年3月31日現在

### 鋼材事業

連結子会社

- 陽鋼物産株式会社  
(特殊鋼製品、製鋼原料、諸資材などの売買)
- サントク精研株式会社  
(特殊鋼製品の加工・販売)
- 山特工業株式会社  
(特殊鋼の加工、機械設備のメンテナンス)
- SKJ Metal Industries Co., Ltd.  
(特殊鋼製品の加工・販売)
- P.T. SANYO SPECIAL STEEL INDONESIA  
(特殊鋼製品の加工・販売)

### 素形材事業

連結子会社

- サントクテック株式会社  
(特殊鋼製品の加工)
- SANYO SPECIAL STEEL U.S.A., INC.  
(特殊鋼製品などの輸入・販売)
- 寧波山陽特殊鋼製品有限公司  
(特殊鋼製品の加工・販売)

持分法適用関連会社

- Advanced Green Components, LLC  
(特殊鋼製品の加工)

### その他事業

連結子会社

- サントクコンピュータサービス株式会社  
(情報システム構築・運用・コンサルティング)

## 株式の状況

平成22年3月31日現在

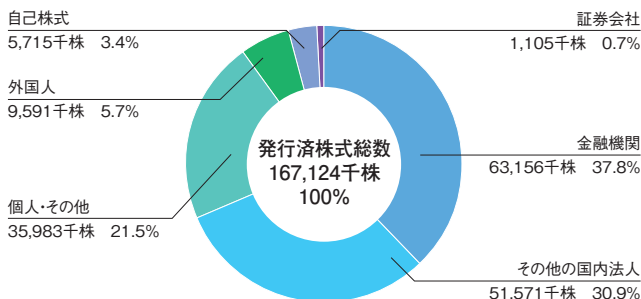
発行可能株式総数	474,392,000株
発行済株式総数	167,124,036株
株主数	18,836名

## 大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
新日本製鐵株式会社	24,256	15.15
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,380	7.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,786	7.36
山陽特殊製鋼株式会社	8,154	5.09
日本精工株式会社	7,470	4.66
株式会社三井住友銀行	5,696	3.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	3,889	2.43
株式会社みずほコーポレート銀行	3,642	2.27
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	3,108	1.94
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,849	1.78

(注)当社は、自己株式5,715千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

## 株式の所有者別分布状況



## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月下旬

同基準日 3月31日

配当の基準日 期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日

電子公告  
【アドレス】 <http://www.sanyo-steel.co.jp/>  
事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、  
日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社

〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号  
事務取扱場所 中央三井信託銀行株式会社  
大阪支店 証券代行部

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
郵便物送付先 中央三井信託銀行株式会社  
証券代行部

お問合せ先 【フリーダイヤル】0120-78-2031

上場証券取引所 東京(証券コード 5481)

## 単元未満株式の買増・買取請求制度のご案内

当社には、1,000株未満の株式(単元未満株式)の買増・買取請求制度がございます。

詳細は、上記お問合せ先までお尋ねください。

**SANYO  
SPECIAL  
STEEL**

